

10年後の自分と、京都のまちの、
ミライとモンダイを考える。
京都市基本計画審議会

U35のメンバーが市民にわかりやすくレポートします！

傍聴記

vol.14

共汗部会 第3回まちづくり部会

(「都市計画」「住環境」「都市基盤分野」分野)

主な議事：分野別方針＜住宅＞、＜都市づくり(建築物の安心・安全)、消防・防災＞、
＜くらしの水＞の検討

開催日：平成22年2月8日(月) 会場：消防局本部庁舎



レポーター 藤川 祐輔さん

1986年香川県で生まれ、東京都で育ち、現在京都で学ぶ。立命館大学政策科学部2回生。第5回政策系大学・大学院研究交流大会実行委員

会議のポイント

POINT 1.

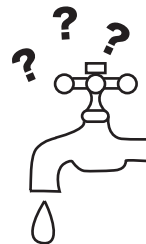
京都の都市づくりにおける住宅とは？



環境に良いからといってソーラーパネルを設置することは良いことなのか？自然にやさしい素材で建築された町家も環境に良いということとは言えないのだろうか？という議論が交わされました。

POINT 2.

暮らしの「水」についての矛盾



市民の意識として節水という考えが良いことだと定着してきましたが、一方で節水することが財政を圧迫しているという捉え方もあり、そのような捉え方は市民に誤解を与えないという議論がありました。

この会議を傍聴して、 藤川さんが思ったこと。

今回の会議では住宅・防災・水という3つのテーマがありました。これらのテーマは関連しています。環境と景観のどちらに比重をとるのか？環境と財政のどちらを大事にするのか？といった議論は非常に難しい問題だと考えますが、これらを両方とも解決できる方法について考えなければ、結局はいつも通りの議論の枠に収まってしまうのではないかと思います。単純に町家は景観形成にとって大切だからという理由では、京都市を歴史博物館にするとは思えません。私たちは将来の京都に何を残して、何を創るのかということを踏まえてまちづくりをしなければならなかったと思います。

私ならこうする！ 未来の京都に向けた藤川さんの提案

今回、住宅や防災の中でマンションと町家の関係性が議論されました。景観や環境という点から考えると、建物の高さやデザイン、屋外広告物の規制を全市的に見直した「新景観政策」に基づくまちづくりを進めるべきと考えます。まずは、景観の中でも取り組みやすい「色彩」に注目して政策を進めてみてはどうでしょうか？ その際、市が押しつけるのではなく、その地域の住民自身が考えていくことが大切になります。通りや町内ごとに色彩ガイドラインをつくり、マンションと町家が色的に違和感のないようにしていくというのはどうでしょうか。そのためにも、市民と行政が協力しあうことが当たり前の社会が、京都において実現できたら、と思います。

U35については、こちらをご覧ください。⇒ <http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000071812.html>

今年は10年に一度の、京都市の10年後を考える年です。
市政をよく知り、よく考え、利用し、参加し、仲良くなろう

発行：京都市 編集：未来の担い手・若者会議U35

